

研究発表会開催通知

(昭和 63 年 3 月 15 日～4 月 30 日)

研究会	日	時	会場	備考
データベース・システム	3月15日(火)	9:30～17:00	慶大	前号参照
コンピュータビジョン	3月15日(火)	10:00～17:00	日本IBM	同上
記号処理	3月23日(水)	13:30～17:00	津田塾大	同上
自然言語処理	3月25日(金)	10:00～16:30	京大	同上

* 4 月は研究会開催予定がありません。

昭和 63 年度研究会登録と論文抄録について

昭和 63 年度の研究会は、現在の 18 研究会に新設の「コンピュータと教育」および「アルゴリズム」の 2 研究会を加え、**20 研究会**でスタートします。

また、本年 4 月から研究会およびシンポジウムで発表される論文の**和文抄録**を、学術情報センター(所長 猪瀬 博)の「**学会発表データベース(第一系)**」に提供することになりました。

著者の方々には、ご負担をおかけいたしますが、貴重な論文を広く知らせることになりますので、是非とも**登録原稿データシート**の作成にご協力いただくようお願いいたします。

なお、英文抄録には、昭和 61 年度から JICST に登録させていただいております。

昭和 63 年度研究賞の表彰について

研究賞は、本学会の研究会および研究会主催シンポジウムにおける研究発表のうちから特に優秀な論文を選び、その発表者に贈られるものです。受賞者は該当論文の**登壇発表者である本学会員**とします。**年齢制限はありません。**

この賞は、研究会活動活性化の施策に基づき、62 年度から新設されました。

本賞の選考は、表彰規程、研究賞受賞候補者手続きおよび研究賞推薦内規に基づき、調査研究運営委員会(委員長 猪瀬 博)が選定委員会となって行います。本年度表彰対象の**9 研究会**(前年の 18 研究会を奇数組と偶数組に分け、**本年度は偶数組**)の主査から推薦された計 9 編の優れた論文について、慎重な審議を行い、受賞候補者として推薦のうえ、理事会(昭和 63 年 7 月)の承認をえて決定されます。

なお、表彰は全国大会(後期)開会式の席上、会長から表彰状、賞牌、賞金が授与されます。

昭和 年 月 日

昭和 63 年度研究会（新規）登録申込書

- (フリガナ)
 ○ 会員氏名 _____ [正・学・賛] 会員 No. _____
 ○ 勤務先名・所属 _____ Tel. _____
 所在地 (〒 _____) _____
 ○ 資料送付先 (上記勤務先以外の場合のみ記入)
 (〒 _____) _____

(ご希望の研究会の申込み欄に○印をつけること)

(*新設)

申込み	研究会名	登録費	申込み	研究会名	登録費
	自然言語処理	3,000円		マルチメディア通信と分散処理	3,000円
	データベース・システム	3,000円		文書処理とヒューマンインタフェース	3,000円
	知識工学と人工知能	2,500円		グラフィクスと CAD	3,000円
	記号処理	2,500円		数値解析	2,500円
	ソフトウェア工学	3,000円		ソフトウェア基礎論	3,000円
	マイクロコンピュータとワークステーション	2,500円		情報システム	3,000円
	計算機アーキテクチャ	3,000円		プログラミング言語	2,500円
	オペレーティング・システム	2,500円		情報学基礎	2,500円
	コンピュータビジョン	3,500円		* コンピュータと教育	2,500円
	設計自動化	3,000円		* アルゴリズム	2,500円

- 登録費 (年間) 2,500円× _____ 件, 3,000円× _____ 件, 3,500円× _____ 件 合計 _____ 円也
 ○ 次のいずれかの方法でご送金ください。いずれの場合も必ず登録申込書が必要です。

なお、会社名などで送金の場合は、別途必ず個人名を事務局までお知らせください。

- 現金書留：登録費と登録申込書を同封のこと。 現金持参
 郵便払込：口座番号 東京 5-83484 (払込用紙に希望研究会名を記入のこと。)
 銀行振込：第一勧銀・虎ノ門支店 (普) No. 1013945

○ 払込み日 昭和 _____ 年 _____ 月 _____ 日

- 情報処理学会の請求書 (_____ 通), 見積書 (_____ 通), 納品書 (_____ 通) が必要です。

*登録上の注意

- 1) 本申込書は新規の方のみご利用ください (62年度に登録された方は使用できません。)
- 2) 62年度にいずれかの研究会に登録された方には、別途各登録者宛に「昭和 63 年度研究会の登録について (お願い)」を送付いたします (3月上旬)。
- 3) 登録は本学会員に限ります。各研究会登録費は年間上表のとおりです。登録者には、研究会開催のつど資料を後日郵送します。
- 4) 登録は、登録費の領収をもって正式の受け付けとします。おそくとも 5 月末日までにご登録ください。6 月以降になると既刊の資料は確保しかねますので、ご承知おきください。

(社)情報処理学会 研究会係 〒106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル 3 F Tel. 03(505)0505

昭和 63 年度研究会のお知らせ

昭和 63 年度は、下記のとおり **20 研究会 (新設 * 2 研究会)** で行います。

- 年間をとおして参加の場合は登録をお願いします。(ただし、本学会員に限る。)
- 登録されていない会員は研究会当日資料代 ¥1,000 (学生 ¥500) をいただきます。(ただし、部数に制限があります。)

研 究 会 名	○主 査 幹 事	取り扱う研究分野の例
1 自然言語処理	○田中穂積 田中裕一 徳永健伸 内藤昭三	言語理論, 言語行動, 言語資料・統計, 漢字処理, 専門用語・辞書, 構文解析, 意味・文脈処理, 談話理解, 知識処理, 機械翻訳, 情報検索, 自然言語処理ソフトウェア
2 データベース・システム	○牧之内顕文 大里博志 清木 康 佐藤和洋	基礎理論, モデル, 設計, 言語, 質問処理, 並行処理, 分散 DB, DB マシン, アーキテクチャ, マルチメディア DB, オフィスシステム, CAD DB, 知能 DB, 知識ベース, インタフェース
3 知識工学と人工知能	○諏訪 基 中島秀之 西田豊明 原口 誠	問題解決, 推論, 探索, 類推, 学習, 認知過程 (思考, 記憶, 神経回路網), 認知モデル, 知識表現, 知識ベース, 知識獲得, エキスパートシステム, パターン理解, 自然言語理解, AI アーキテクチャ, 応用人工知能
4 記号処理	○中西正和 井田昌之 小川貴英 小谷善行	記号処理言語と処理系, 記号処理の理論と応用 (数式処理, 言語処理, ゲーム, 知識ベース, 論理プログラミング, ラムダ算術, 関数型言語など), 記号処理アーキテクチャ, 記号処理の技法
5 ソフトウェア工学	○花田悦悅 落水浩一郎 紫合 治 春原 猛	設計技法, 形式的仕様・プログラム図式, 試験・検証, ツール・開発支援環境, 再利用・プログラム合成, ソフト生産用エキスパートシステム, 管理, メトリックス, 信頼性, 標準化, 人間要因・教育
6 マイクロコンピュータとワークステーション (マイクロコンピュータ)	○若鳥陸夫 岡田 義邦 森本陽二郎 山田 剛	マイクロコンピュータの構成, 操作系及び応用を基本とするが, 特に EWS (エンジニアリングワークステーション) とビジネス WS の研究に重点を置く
7 計算機アーキテクチャ	○田中英彦 喜連川 優 長谷川隆三 横田 実	計算機システムの設計・機械・制御技術, ファームウェア技術, VLSI 向きアーキテクチャ, 応用指向・問題向きアーキテクチャ, 各種並列アーキテクチャ
8 オペレーティング・システム	○亀田壽夫 川島幸之助 黒沢 隆洋 村松 洋	OS の基礎・構造論, 人間工学的側面, プログラミング環境, 分散・並列処理 OS, システム性能評価, 信頼性, 関連するコンピュータシステムの諸問題
9 コンピュータビジョン	○鳥脇純一郎 大田友一 田島讓二	視覚から入力される画像や物体などに対する情報処理研究の発表の場であり, これを通じて我が国における研究の向上とその育成, 並びに, 研究者間の交流を推進する. 具体的な研究範囲は, 画像処理一般, ロボットビジョン, 視覚系モデル, 物体認識, 動画画像解析, 画像データベースである.
10 設計自動化	○平川和之 井上隆秀 川西 宏 神戸尚志	LSI/VLSI・プリント板・論理装置等の論理設計・実装設計・検査設計の自動化, ハードウェア記述言語, 階層化設計手法, シリコンコンパイラ, 設計データベース, 知識ベース CAD, 設計検証, テスト容易設計, テスト評価

研究会名		○主査 幹事	取り扱う研究分野の例
11	マルチメディア通信と分散処理	○松下 温 浦野義頼 山崎晴明 若山博文	マルチメディアによる情報通信・通信ネットワークの構築技術とその応用・機能分散および負荷分散など分散処理システムの設計と運用技術
12	文書処理とヒューマンインタフェース	○木村 泉 角田博保 黒須正道 首藤正道	1. 計算機システムのヒューマンインタフェースとその評価 2. 思考メカニズムと認知モデル 3. 日本語入力方式 4. 文書処理 5. OA とのかかわり
13	グラフィクスと CAD	○川合 慧 中嶋 正之 真名垣昌夫 守屋 慎次	グラフィクス ソフトウェア/ハードウェア, グラフィクス言語, 標準化, 図形処理と表示のアルゴリズム, 形状処理, 表示技術, アニメーション, ユーザインタフェース, 図形データベース, 図面の認識と理解, ワークステーション, CAD/CAM, AI の CAD への応用
14	数値解析	○名取 亮 関口智嗣 野寺 隆 福井義成	1. 数値計算の基本アルゴリズム 2. ベクトル計算機による超大型計算 3. 並列計算機による高速計算 4. 数式処理, 知識情報処理と数値計算の融合 5. ハードウェア, 言語への提言
15	ソフトウェア基礎論	○佐藤雅彦 柴山悦也 田中二郎 萩野達也	1. ソフトウェアの理論的基礎 (仕様記述, 並行・分散処理, 拡張論理など) 2. 計算モデル (論理型, 関数型, オブジェクト指向等) 3. プログラミングの基礎 (自動合成と変換, デバッギング等)
16	情報システム	○伊吹公夫 岩丸良明 鷹野 澄 槻木公一	情報システム (OIS, MIS, 情報サービスなど) の分析・設計・構築・利用, 情報ニーズ, 情報・データの管理などの理論と実際, 情報システムと人間・組織・社会
17	プログラミング言語	○斉藤信男 石畑 清 寛 捷彦 徳田雄洋	1. プログラミング言語の基礎理論 (構文論, 意味論, メタ言語) 2. プログラミング概念の形式的記述 (データ構造論, 並行処理論, プログラムの検証, 言語設計) 3. 言語処理系の理論と実際 (構文解析, コード生成, 最適化, コンパイラコンパイラ, 解釈系, 言語向きマシン) 4. プログラミング支援環境 (テキスト編集系, 構文向き編集系, デバッガユーザインタフェース, 文書化)
18	情報学基礎	○藤原 譲 有川節夫 岩野和生 中村史朗	1. データ知識整備; 記述, 表現, 識別, 評価, 蓄積など 2. データ知識流通; 媒体, 変換, 標準化, 分類など 3. データ知識の基礎理論; 管理・処理方式, 組織化, 推論, モデリングなど
19	* コンピュータと教育	○有山正孝 雨宮幸雄 大槻説平 竹谷 誠	1. 知的教育システム (①知的要素技術の基礎研究, ②知的教育システム開発の実践的研究, ③知的インタフェース) 2. 情報処理教育 (①カリキュラム開発, ②教育技法)
20	* アルゴリズム	○野崎昭弘 今井 浩 中村勝洋 西関隆夫	1. グラフ, ネットワーク, VLSI などに関する組合せアルゴリズム 2. 計算幾何学と計算代数学 3. 暗号, 符号などの数論的アルゴリズム 4. 確率アルゴリズム, 近似アルゴリズム 5. 並列アルゴリズム, 分散アルゴリズム, ハードウェアアルゴリズム 6. データ構造 7. 計算複雑性の理論

コンピュータと教育研究会発足のお知らせ

コンピュータと教育とのかかわりには、コンピュータないし情報処理技術そのものの教育と、教育にコンピュータを利用する問題の二つの側面がある。

最近のコンピュータと情報処理技術の進歩は、教育へのコンピュータ利用の急速な拡大と普及をもたらした。しかし従来の型の CAI, CMI においても、情報処理技術の立場からの支援を必要とする部分がなお多く残されている。さらに近年、知識工学・教育工学の進歩とあいまって、知的 CAI の方法が新たな研究課題として注目されている。

一方、情報化の進展にともない、情報処理技術者の供給不足が一つの社会問題となっており、また一般のコンピュータ利用者に対する教育とコンピュータ リテラシについても関心がたかまっている。

これらの問題の重要性と、近年本会の大会等において関連テーマの研究発表が増加している事実を考慮して、新しい研究会を発足させることとなった。多数の会員の参加と積極的な研究会活動を期待するものである。

◆ 目 標

1. 情報処理技術・知識工学・ニューメディア技術と教育工学との接点を重視し、教育へのコンピュータ利用の新しい方法ならびにシステム開発の技法の研究に寄与すること。
2. わが国の情報処理技術の基礎を支える専門技術者・研究者の育成から情報社会の基盤を形成するコンピュータ リテラシの普及に至る幅広い教育の問題について現状の分析とカリキュラム開発、教授法の研究に寄与し、併せて情報の交換を行うこと。

◆ 主要な研究分野

1. 教育におけるコンピュータ利用。特に知的 CAI, 教育現場に適合したコンピュータのハードウェア, ソフトウェア, 言語, 教材開発支援ツール等。
2. 情報処理教育の諸問題。学校教育・企業内教育・再教育・生涯教育等におけるカリキュラム, 教材開発技法, 教授法等。

◆ 提 案 者 (五十音順)

雨宮幸雄 (東京計算サービス)	有山正孝 (電通大)	飯塚宏紀 (富士通)
井上謙蔵 (東理大)	魚住 董 (富士通)	牛島和夫 (九 大)
浦 昭二 (慶 大)	江村潤朗 (日本 IBM)	大岩 元 (豊橋技科大)
大槻説乎 (九工大)	川合 慧 (東 大)	倉田政彦 (日 電)
斎藤忠夫 (東 大)	佐藤隆博 (日 電)	椎野 努 (沖電気)
高橋延匡 (東京農工大)	武市正人 (東 大)	豊田順一 (阪 大)
長尾 真 (京 大)	中西正和 (慶 大)	西村敏男 (筑波大)
花岡 菖 (三菱電機)	一松 信 (京 大)	真木世之 (東海大)
松谷泰行 (日鐵コンピュータシステム)	三浦大亮 (東レエンジニアリング)	
御牧 義 (電通大)	山本米雄 (徳島大)	山本欣子 (情開協)
米田信夫 (東 大)		

アルゴリズム研究会発足のお知らせ

アルゴリズムの研究は古くはユークリッドの互除法など数学と共に始まったといってよく、計算機科学の分野で最も古い歴史がある。アルゴリズムは問題解決の手続きを与えるもので、計算機ソフトウェアばかりでなくハードウェアにとって基本となる重要な要素である。このようにアルゴリズムは計算機科学研究の一つの中心的テーマであり、この分野には多くの研究課題が残されている。多数の会員の参加と積極的な研究会活動を期待するものである。

◆ 目 標

1. アルゴリズムの課題を明らかにし、効率よいアルゴリズムの開発や解析，理論の確立に寄与すること。
2. アルゴリズムに関する情報の交換や研究交流を行うこと。

◆ 主要な研究分野

1. グラフ，ネットワーク，VLSI などに関する組み合わせアルゴリズム
2. 計算幾何学と計算代数学
3. 暗号，符号などの数論的アルゴリズム
4. 確率アルゴリズム，近似アルゴリズム
5. 並列アルゴリズム，分散アルゴリズム，ハードウェアアルゴリズム
6. データ構造
7. 計算複雑さの理論

◆ 提 案 者(五十音順)

五十嵐善英(群馬大)	稲垣 康善(名 大)	茨木 俊秀(京 大)
今宮 淳美(山梨大)	伊理 正夫(東 大)	岩垂 好裕(日電)
大附 辰夫(早 大)	梶谷 洋司(東工大)	菅 忠義(学習院)
上林 弥彦(九 大)	小泉 寿男(三菱電機)	小林孝次郎(東工大)
小山 謙二(N T T)	斎藤 信男(慶 大)	斎藤 伸自(東北大)
渋谷 政昭(慶 大)	鈴木 則久(日本 IBM)	谷口 健一(阪 大)
富田 悦次(電通大)	中森真理雄(農工大)	西関 隆夫(東北大)
野口 正一(東北大)	野崎 昭弘(I C U)	野下 浩平(中央大)
浜田 穂積(日 立)	韓 ^{ハン} 太 ^テ 舜 ^{スン} (専修大)	一松 信(京 大)
二木 厚吉(電総研)	横森 貴(富士通)	

◆ 研究発表会開催予定（4月～9月）

(研究会名)

(開催日・会場)

自然言語処理	5月27日(金) KDD研 9月22日(木) 東工大	7月22日(金) 神戸大
データベース・システム	5月19日(木) リコー 9月22日(木) KDD研	7月22日(金) 愛媛大
知識工学と人工知能	5月11日(水)・12日(木) 機・B3-1 7月7日(木)・8日(金) 琉球大 9月21日(水)・22日(木) 日本IBM	
記号処理	6月 名古屋 9月 青学大	
ソフトウェア工学	5月18日(水) 機・B3-研2 7月27日(水) 機・B3-2	6月22日(水) 機・B3-2 9月14日(水) 関西
マイクロコンピュータ とワークステーション	5月13日(金) 東京 9月27日(火) 機・B3-2	6月28日(火) 機・B3-9
計算機アーキテクチャ	7月7日(木) 青森 9月16日(金) 機・B3-9	
オペレーティング・システム	6月17日(金) 機・6F-67 9月9日(金) 機・6F-65	
コンピュータビジョン	5月19日(木) 名大 9月29日(木) 東北大	7月21日(木) 機・B3-2
設計自動化	5月17日(火) 明大 7月12日(火) 機・B3-2	
マルチメディア通信と分散処理	5月20日(金) 沖繩 9月16日(金) 機・6F-65	7月14日(木) 機・6F-65
文書処理とヒューマン インタフェース	5月9日(月) 機・B3-2 9月8日(木) 機・B3-2	7月15日(金) 機・B3-1
グラフィクスとCAD	5月13日(金) 東工大 8月25日(木)・26日(金) 集中研究会 9月29日(木) 機・B3-研1	7月22日(金) 岩手大
数値解析	7月8日(金) 機・B3-2	
ソフトウェア基礎論	5月26日(木) 名大	
情報システム	5月17日(火) 東大 9月20日(火) 慶大	
プログラミング言語	5月13日(金) 早大 7月15日(金) 機・B3-2	
情報学基礎	6月27日(月) 機・B3-2 9月16日(金) 機・6F-67	
コンピュータと教育	7月14日(木) 機・B3-2	
アルゴリズム	5月23日(月) 上智大 9月22日(木) 阪大	7月25日(月) 機・6F-65
注) 機 - 機械振興会館		
* 各研究会に発表申込希望者は開催の3カ月前までに研究会発表申込書(本欄末添付)を事務局研究会係までご送付ください。		

昭和 年 月 日

研究会発表申込書

太線枠内のみご記入ください。

研究会名	研究会
発表希望の 研究会開催日	昭和 年 月 日 ()
タイトル	
発表者名・所属 (連名者を含む)	
概要 (50字以内)	
原稿用紙送付先住所	〒 — Tel. — (内線)
氏名	

昭和 年 月 日受付

研究会名 資料 No. 開催日 幹事送付済み その他

		昭和 年 月 日	
--	--	----------	--

情報処理学会 第37回 全国大会実施要領

情報処理学会第37回全国大会（昭和63年後期）を次の要領で開催します。

講演発表希望者は、実施要領を熟読のうえ、日程に従って所定の手続きを進めてください。

今回から講演発表申込みは本論文で行い、論文締切後、ただちにプログラム編成委員会を開催し、プログラム編成を行うことになりました。

このため、講演申込、原稿用紙の請求、論文提出、講演日時の告知などの方法が変更になっております。

論文締切日の厳守を徹底しますので、論文等の提出は必ず期日までにお出しください。 一日でも遅れると発表できなくなりますので、特にご注意願います。

開催期日 昭和63年9月12日(月)、13日(火)、14日(水)

会場 立命館大学（京都市北区等持院北町 56-1）

日程一覧 1. 講演発表用原稿用紙等の請求

学会誌本号 (Vol. 29, No. 3) 掲載の請求書に記入して、応募規程 IV. 1 の申込方法により請求してください。

2. 原稿用紙等の送付

請求書を3月15日(火)、3月31日(木)、4月25日(月)に締切り、それぞれ締切った分について事務局から、「講演発表申込書」、「論文原稿用紙」等をお送りします。

3. 講演論文等の提出

講演論文（本原稿）、講演論文コピー1部（B5判）、「講演発表申込書」等を一括して**6月15日(水)**までに、学会事務局に必着するようご提出ください。応募規程 IV. 2 参照。締切りに遅れますと発表できなくなりますので、特にご注意ください。

4. プログラム編成委員会の開催

講演論文等を締切り次第、大会プログラムの編成および座長候補の推薦を行います。この後、ただちに事務局から座長に依頼をいたします。

5. 講演発表者には講演日時を**7月末日**までに到着するようご通知いたします。

6. 大会プログラムを学会誌8月号 (Vol. 29, No. 8) に掲載いたします。発表者は特にご注意ください。

7. 論文集予約申込書を学会誌6月号 (Vol. 29, No. 6) に掲載します。お早目にご予約ください。

応募規程 I. 講演内容

1. 全国大会にふさわしい内容を備えたものとします。
2. 発表は日本語または英語とします。

II. 応募資格

1. 登壇発表者は申込時に情報処理学会個人会員であること。
2. 共同発表者は当学会個人会員であることが望ましい。
3. 昭和62年度会費未納の会員は発表できません。
4. 電気、電子情報通信、照明、テレビジョン各学会会員は当学会会員と同様の取り扱いとします。ただし、表彰対象者になりません。

III. 講演論文該当分野

1. 基礎理論および数値処理
 - a. 計算理論, b. アルゴリズム, c. ソフトウェア基礎, d. 数値計算, e. 数式処理, f. その他
2. アーキテクチャおよびハードウェア
3. オペレーティングシステム
4. データベースシステム
5. ネットワークおよび分散処理
6. プログラミング言語とその処理系
 - a. 手続き型言語, b. 関数型言語, c. オブジェクト指向型言語, d. 論理型言語, e. その他の言語, f. 処理系実現手法, g. その他
7. ソフトウェア工学
 - a. 要求定義技法, b. 設計技法, c. プログラミング技法 (エディタ等), d. テスト技法 (デバッグ等), e. 支援環境, f. 開発・保守・運用, g. 品質・信頼性, h. 仕様作成・プログラム合成, i. その他
8. 自然言語処理
 - a. 解析および生成, b. 機械翻訳, c. 自然言語理解, d. 辞書・データ分析, e. テキスト処理, f. その他
9. 知識情報処理
 - a. 知識表現, b. 知識利用, c. 推論方式, d. 知識ベース, e. 問題解決, f. 知識プログラミング, g. エキスパートシステム, h. 知的インタフェース, i. 学習, j. その他
10. パターン処理
 - a. 文字認識, b. 音声, c. 図面処理, d. 画像処理, e. 画像データベース, f. 画像処理エキスパートシステム, g. ロボット, h. 画像理解, i. 画像計測, j. その他
11. デザインオートメーションおよびコンピュータグラフィクス
 - a. CAD, b. CAE, c. CAM, d. グラフィクス, e. シミュレーション, f. その他
12. オフィスオートメーション
13. 応用システム
 - a. 情報システム, b. ニューメディア, c. 教育への応用, d. 芸術への応用, e. 産業への応用, f. 社会への応用, g. 情報処理教育, h. シミュレーション, i. その他

IV. 申込方法

1. 発表を計画された時
学会誌本号みどりのページ掲載の「**全国大会講演発表用原稿用紙等請求書**」に必要事項を記入して申込むこと。
2. 講演論文を提出される時
講演論文 (本原稿) およびコピー, 講演発表申込書等を添えて申込むこと。
なお, 連続発表を希望される場合は, 別紙にて標題, 講演者名および発表順番を明記し, 申込書と原稿をまとめて送付すること。

V. 申込件数

1. 登壇発表は原則として1人1件とします。
2. 2件以上になる場合は、1件ごとに発表料が必要です。

VI. 申込料金

1. 1件につき、1ページ論文は**6,000円**、2ページ論文は**7,000円**です。
2. 講演申込書、論文等を提出する際、同時に納入してください。なお、納入後、発表申込を取消されても返金できませんのでご注意ください。

VII. 論文提出

1. 所定の原稿用紙を申込締切順に送付しますので、**6月15日(水)**までに必着するようコピー等と一緒に提出ください。
2. 論文は日本語または英語とします。
3. 論文抄録を「学会発表データベース(第一系)、学術情報センター」に入力することになりました。所定の用紙および記入要領に従って記入のうえ論文と一緒に提出してください。なお、著作権は学会と共有です。
4. ワードプロ、タイプで作成した原稿はプリントした原文をお使いください。
5. 論文提出後の訂正は原則としてできません。
ただし、やむを得ない事情で訂正をしたい場合は、**7月15日(金)**一日(午後5時まで)に限り、学会事務局2階にて訂正を受付けます。なお、郵便、電話等による訂正はできませんのでご注意ください。

VIII. 論文の採否

講演論文の採否は大会運営委員会(プログラム編成委員会)が決定する。採択しないものは、例えば次のような場合である。

1. 論文の内容が著しく不十分なもの。
2. 内容が商業宣伝に偏したもの(極端な商品名の引用には注意する)。
3. 同一または類似の発表がなされており、かつ前進がないもの。
4. 応募規程に違反するもの。
5. 提出期限に遅れたもの。(次回への応募をお薦めします)

IX. 論文集の配付

発表者には大会当日受付けにて、論文集全冊をお渡しします。

X. 発表論文の別刷はいたしません。

XI. 発表当日の講演者心得

1. 講演の始まる前に、必ず自分の発表会場の講演者受付で、出席の確認を受ける。
2. 必ず前の講演者の講演時間中には、座長席の前に設けられた講演者控で待機する。
3. 一般講演の時間は、質疑を含めて15分間を原則とします(都合により13分間のセッションもあります)。講演中でも時間切れで打切ります。
4. 講演終了予定時刻の5分前および3分前に座長補佐がベルで合図します。
5. 講演の代理(読)は認めません。

XII. 申込先及び問合せ先

(社)情報処理学会 全国大会係

〒106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル Tel. 03 (505) 0505

第 37 回 全国大会講演発表用原稿用紙等請求書

1. 発表を希望する者は氏名，住所，請求部数を記入して申込むこと．返送用宛名用紙にも同様に記入のこと．
2. 原稿用紙等の送料として1組希望の場合は郵便切手 170 円，2 組以上の場合は1組増すごとに 70 円添付のこと．
3. 申込みは本用紙のコピーを郵送のこと．
4. 本号掲載の実施要領をよく読んで請求してください．
5. 返信用封筒はいりません．

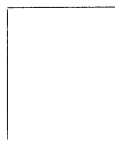
氏 名 _____

住 所 _____

請求部数 1 ページ発表…… _____ 組請求します．

2 ページ発表…… _____ 組請求します．

(切り取らずにお申込みください)



(氏名)

(住所)

情報処理学会第37回全国大会
原稿用紙在中

1 ページ発表 組

2 ページ発表 組

殿

学術奨励賞候補の推薦について

全国大会で優秀な論文を発表した会員の中から、大学学部卒業後10年未満（またはこれと同等）の若手の科学者・技術者約10名を選び、学術奨励賞を贈呈し表彰いたしております。

つきましては、来る3月16日～18日に慶應大学・日吉校舎で開催される第36回全国大会での登壇発表者の中から、下記により受賞候補者1名をご推薦くださいますようお願いいたします。

また、第36回全国大会参加者には会場に推薦用紙を用意してありますので、会場でご推薦くださるようお願いいたします。

なお、受賞者の選定は学術奨励賞委員会（委員長 石井副会長）で行い、その発表と表彰は本年9月に開催の第37回全国大会（立命館大学）時に行われる予定です。

記

選定範囲および推薦数

第36回全国大会で発表された優秀な論文の登壇発表者1名

推薦資格 本学会正会員に限る。

推薦方法 官製はがきに、推薦する論文の①講演番号 ②題目 ③登壇発表者名 ④所属 ⑤出身校（学部）卒年 ⑥推薦理由および推薦者の氏名、所属、住所をもれなくご記入のうえ、本会学術奨励賞係あてにお送りください。

推薦締切 昭和63年3月31日（当日消印有効）

表彰規程（抜粋）

第5章 学術奨励賞

第19条 学術奨励賞は、情報処理に関する学問、技術の奨励のため、有為と認められる新進の科学者または技術者に贈呈する。

第20条 学術奨励賞を受ける者は、全国大会において優秀な論文を発表した者で、つぎの各号に該当する者から選定する。

- イ 選定の時期において本会会員であること（選定の時期とは、第1回の委員会開催時とする）。
- ロ 講演の時期において大学の学部卒業後10年未満の者またはこれと同等と認められる者であること。
- ハ 大会参加申込の際講演者として登録かつ講演を行った者であること。
- ニ 本奨励賞を受けたことのないものであること。

第21条 第20条の選定は、全国大会終了後速やかに行う。

第22条 学術奨励賞は、毎回約10名ずつ選定し、贈呈する。

第23条 学術奨励賞は、賞状、賞牌および賞金とする。

- 2. 賞金は、1名につき20,000円とする。

新年度にあたって（お願い）

——会費・購読費の納入、新会員勧誘など——

新年度にあたって、会員の皆様に会費等の納入のお願いとともに、つぎの点につきご確認いただき、あわせてご協力のほどお願いいたします。

（1）63年度の会費および論文誌・欧文誌購読費の納入

1月下旬に会員個々に納付書（郵便振替用紙）を送付いたしました。未納の方は早急にご納入ください。

また、会費等の銀行等預金口座からの自動振替納入については、まだ申込みを受付けておりますので、所定の**預金口座振替依頼書**（63年度会費払込依頼書に同封）により、早急にお申込みください。

なお、口座振替依頼書が1月中に学会事務局に到着した場合は**3月28日**に、2月1日以降の場合は7月に、自動振替いたしますのでご了承ください。

（2）大学学部卒業予定の学生会員の会費

本年3月に大学学部卒業予定の学生会員には、63年度会費は正会員（7,200円）として請求してあります。大学院修士課程に進まれた方は、学生会員として継続できますので、納付依頼書の記事を参照のうえ、会員番号を付し、大学院名・研究科名・専攻名、修了予定年月および学会誌の送本先を変更する場合はその宛先等を必ずご連絡ください。

（3）退 会

書面（様式任意、はがき可）にてお申出ください。なお、62年度会費が未納の場合には、昨年4月以降送本した学会誌を会費月割りで精算のうえ請求いたします。

また、62年度会費未納者には、これまで再三にわたり請求いたしておりますが、このたびの請求によっても納付いただけない場合には、本学会から除名することがありますので、ご承知ください。

（4）学会誌の送本先変更

勤務先、自宅住所に異動のある方は、必ず所定の「変更連絡届」用紙（4月号、10月号に添付）にて会員番号を付し、早速にご連絡ください。

（5）論文誌・欧文誌の新規購読

論文誌（月刊）および欧文誌（季刊）は有料頒布です。購読を希望する会員は2月号に添付の申込書を使用して、お申込みください。

新入会員勧誘のお願い

3月は入会絶好のチャンスです。本号末尾綴込みの入会申込書で、入会をご勧誘ください。

昭和 63 年度各種行事の予定について

4 月以降の主な行事予定は以下のとおりです。詳細は順次本欄にてお知らせします。
 なお、期日・会場が変更されることもありますので、ご注意ください。

行 事	期 日	会 場
第 29 回通常総会	5・28 (土)	機械振興会館
第 37 回全国大会	9・12 (月)~14 (水)	立命館大学
第 38 回全国大会	64・3 中旬	(東京)
~~~~~		
(シンポジウム)		
計算機システムのヒューマンインタ		
フェース	4・13 (水)~14 (木)	機械振興会館
コンピュータアーキテクチャ	5・17 (火)~18 (水)	"
利用者指向の情報システム	6・24 (金)~25 (土)	"
1988 年夏のシンポジウム	7・21 (木)~23 (土)	静雲荘 (強羅)
第 21 回情報科学若手の会	(未定)	(未定)
設計自動化 (DA)	(9月)	"
グラフィクスと CAD	10・25 (火)~26 (水)	機械振興会館
教育における知的方法	11・10 (木)	"
マイクロコンピュータの現状と将来	11・15 (火)	東京 (未定)
コンピュータ・システム	11・29 (火)~30 (水)	"
音声・データ統合通信の実際	(11月)	機械振興会館
アドバンスト・データベース	12・8 (木)~9 (金)	"
知的プログラミング環境	12・13 (火)~14 (水)	"
第 30 回プログラミング・シンポジウム	64・1・10 (火)~12 (木)	箱根・ホテル小涌園
並列処理 (講習会)	(1月)	(未定)
コンピュータグラフィクスの標準化動向	9・30 (金)	機械振興会館
~~~~~		
(共 催)		
昭和 63 年電気・情報関連学会連合大会	10・3 (月)~5 (水)	新潟大学
第 19 回画像工学コンファレンス	12・7 (水)~9 (金)	日経ホール
1989 情報学シンポジウム	64・1・18 (水)~19 (木)	日本学会会議講堂

「コンピュータアーキテクチャ」シンポジウム開催について

現行汎用コンピュータの性能限界が明らかになりつつある中で、新しいコンピュータアーキテクチャに関する研究・開発は近年ますます盛んとなっております。アーキテクチャに関係する広い分野の研究者や利用者が、一堂に会して各々の立場から研究発表を行い現在の研究動向を把握し、解決すべき問題を明確化するとともに将来のコンピュータ像を模索することは有意義と考えます。このような観点からコンピュータアーキテクチャ研究会では標記のシンポジウムを2日間にわたって開催し、一般研究発表に加えて後藤英一教授ならびにシーケント社からの招待講演、そしてエキサイティングなパネルを予定しております。是非、多数ご参加ください。

主 催 情報処理学会コンピュータアーキテクチャ研究会
協 賛 IEEE Computer Society. 電子情報通信学会コンピュータシステム研究会
日 時 昭和63年5月17日(火)、18日(水) 8:55~18:45
場 所 機械振興会館大ホール(地下2階)
参加費 正会員 10,000円, 非会員 15,000円, 学生会員 1,500円
 (論文集のみ3,500円, 送料400円)
申込締切 昭和63年4月25日(月)(定員150名に達し次第、締め切らせていただきます)

~~~~~ プ ロ グ ラ ム ~~~~~

第1日(5月17日(火))

開会挨拶 (8:55~9:00) 田中 英彦(東大)
招待講演 (9:00~10:00)
 ・サイクリックパイプラインコンピュータとジョセフソンコンピュータ 後藤 英一(東大)
 一休憩 (10:00~10:15)ー

セッション1 メインフレームにおけるメモリアーキテクチャ (10:15~11:45)

座長 飯塚 肇(成蹊大)
 ・M-68Xにおけるメモリシステム 山岡 彰, 久保 完次, 中村 幸二(日立)
 ・ACOSにおけるメモリシステム
 大森 祐三, 近藤 忠雄, 赤木 正信, 井上 政信, 右田 俊幸(日電)
 ・メインフレームにおけるメモリ技術動向について 金田 三郎(富士通)
 一昼食 (11:45~12:45)ー

セッション2 新アーキテクチャ (12:45~14:45)

座長 国分 明男(電総研)
 ・ニューラルネットワークシミュレーションマシン NeuMan
 梶原 信樹, 中田登志之, 松下 智, 小池 誠彦(日電)
 ・機能ディスク・システム第2版 中野美由紀, 喜連川 優, 高木 幹雄(東大生研)
 ・故障検査系列生成専用マシン: PARAM 鈴木 潤, 大森 健児(法政大)
 ・光結合3次元VLSIアーキテクチャ上におけるソーティング: $T=0(\log^2 N)$, $AT^2=0(N\log^4 N)$
 長谷川 誠(静岡大), 堀口 進, 重井 芳治(東北大)
 一休憩 (14:45~15:00)ー

セッション3 Prolog & Lisp マシン (15:00~17:00)

座長 柴山 潔(京大)
 ・The High Performance Interconnection Network of the Parallel Inference
 Machine PIE 64
 Hanpei Koike, Eiichi Takahashi, Tsukasa Yamauchi and Hidehiko Tanaka(東大)
 ・Prolog 指向 RISC プロセッサ Pegasus—動的命令差替えによる Prolog 処理の効率化—
 瀬尾 和男, 横田 隆史(三菱)

- ・KL1 擬似並列処理系における実時間 GC 方式のキャッシュ特性の評価

西田 健次, 木村 康則, 松本 明, 後藤 厚宏 (ICOT)

- ・リストパターンマッチング処理を高速に行う記号処理マシン ATOM のアーキテクチャ

和田 良一, 青木 豊, 本間 真人 (松下電器)

—休憩 (17:00~17:15)—

セッション4 超多重処理アーキテクチャ (17:15~18:45)

座長 瀧 和男 (ICOT)

- ・超多重並行処理のためのプロセッサ・アーキテクチャ

雨宮 真人 (NTT)

- ・PN (Parallel Neumann) Computer の提案

曾和 将容 (名工大)

- ・分散型構造データの超多重処理モデルとそれに適したミックスフロー計算機の構想

武末 勝 (NTT)

第2日 (5月18日(水))

招待講演 (9:00~10:00)

- ・Commercial Tightly Coupled Multiprocessor

Dave Rodgers (Sequent Computer Systems Inc.)

—休憩 (10:00~10:15)—

セッション5 スーパーミニコンのアーキテクチャ (10:15~11:45)

座長 喜連川 優 (東大)

- ・MELCOM 70 新 MX シリーズのアーキテクチャ

黒田 健児, 大野 次彦 (三菱)

- ・スーパーミニコンコンピュータのアーキテクチャ

白男川幸郎 (東芝)

- ・OKITAC 8300

高瀬 純一 (沖電気)

—昼食 (11:45~12:45)—

パネル討論 「ニューテクノロジー (ニューロン, 光, 3次元技術) はコンピュータを変えるか」

(12:45~14:15)

モデレータ 石井 治 (日本工大)

パネリスト 阿江 忠 (広島大)

松本 元 (電総研)

谷田貝豊彦 (筑波大)

—休憩 (14:15~14:30)—

セッション6 並列アーキテクチャ (14:30~16:00)

座長 武末 勝 (NTT)

- ・可変構造型並列計算機のシステム・アーキテクチャ

村上 和彰, 田中 幸二, 安富 伸浩, 福田 晃, 末吉 敏則, 富田 眞治 (九大)

- ・汎用マルチプロセッサシステム OSCAR のアーキテクチャ

笠原 博徳, 本多 弘樹, 成田誠之助 (早大), 橋本 親 (富士ファコム制御)

- ・動的配列シリンダディスクの構成法

岡本 正昭 (大阪ガス)

—休憩 (16:00~16:15)—

セッション7 専用プロセッサアーキテクチャ (16:15~18:15)

座長 山本 昌弘 (日電)

- ・3次元図形表示処理専用プロセッサ EXPERTS の性能評価

新実 治男, 萩原 宏 (京大)

- ・センサ情報の処理のための並列処理アーキテクチャ

石川 正俊 (製品科学研)

- ・非線形空間フィルタリングの実行が可能な画像処理アクセラレータ

米田 秀樹 (川崎製鉄), 柴田 昌聡 (川鉄テクノリサーチ)

- ・グラフィックス専用計算機 SIGHT—光線追跡法の並列処理—

成瀬 正 (NTT)

閉会挨拶 (18:15~18:20)

喜連川 優 (東大)

「コンピュータアーキテクチャ」シンポジウム

参加申込書

昭和 63 年 月 日

申込者 氏名 _____ 会員 No. _____

連絡先 (住所, 会社名, 所属) 〒 _____

Tel. _____

標記シンポジウムの参加を下記によって申し込みます。

○参加費 (該当するものを○印でかこむ)

正会員, 賛助会員 10,000 円 非会員 15,000 円 学生会員 1,500 円

○論文集のみ (3,500 円, 送料 400 円) 冊

○送金方法

_____ 円を _____ 月 _____ 日送金します (金額, 送金月日を記入のうえ該当する送金方法を○印でかこむ)。

a. 現金書留 (送金先 〒106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル (社)情報処理学会 シンポジウム係)

b. 銀行振込 (いずれも普通預金口座)

第一勧銀虎ノ門支店	1013945	富士銀行虎ノ門支店	993632
三菱銀行虎ノ門公務部	0000608	三井銀行本店	4298739
住友銀行東京公務部	10899	三和銀行虎ノ門東京公務部	21409
名義人 東京都港区麻布台 2-4-2 社団法人 情報処理学会			

請求書類の必要な方はお申出ください。

請求書 _____ (No. _____)
請求先 _____ 通, 見積書 _____ 通, 納品書 _____ 通

注) 申込書は 1 枚 1 人としてください (この用紙のコピーで可)。

「**計算機システムのヒューマンインタフェース —モデル・
評価・展望—**」シンポジウム開催について

日時 昭和63年4月13日(水)~14日(木) 9:20~17:00
場所 機械振興会館ホール(地下2階)
参加費 正会員 10,000円, 非会員 15,000円, 学生会員 1,500円
(論文集のみ3,500円, 送料400円)
申込締切 昭和63年3月28日(月) (プログラムおよび申込書は前号にあります.)

本会協賛等の行事案内*

知識獲得と学習に関する特別講演会
昭和63年3月24日(木) 新宿・家の光会館
第6回 日本ロボット学会学術講演会
昭和63年10月20日(木)~22日(土) 名古屋大学
第31回 自動制御連合講演会
昭和63年10月25日(火)~27日(木) 大阪・なにわ会館
第3回 国際合同コンピュータ・コミュニケーション・ワークショップ
昭和63年7月7日(木)~9日(土) 韓国・濟州島

*詳細は本号会議案内欄参照

論文誌, 欧文誌の購読のおすすめ

論文誌, 欧文誌の63年度からのご購読をおすすめいたします。前号に綴込みの申込書により, 早速にお申込みください。

欧文誌の原稿募集について

本学会欧文誌「Journal of Information Processing (JIP)」に積極的に論文をお寄せください。投稿規定の詳細は JIP 各巻第 1 号に掲載されていますからご参照ください。JIP では (1) 掲載論文について、英文を母国語民に手入れしてもらうことができます。また (2) 論文の著者は掲載誌 10 部を、望む海外の寄贈先に送ることができます。なお (3) 目下査読期間短縮のため、種々の手を打っています。なお、以下にその要約を示します。

欧文誌の性格、掲載論文種別

JIP は英文による学術雑誌である。掲載論文等は (1) 原著論文、(2) ショートノート、(3) 学会出版物のアブストラクト、(4) その他、とする。(1) と (2) を募集する。

A. 投稿方法

(1) 原稿は 4 部提出する。原著論文は刷り上がり 8 ページ以内を一応の目安とするが、内容にふさわしい限り特に長さの制限はない。ショートノートは 2 ページ以内に限る。

(2) 図面は原則として原本を提出する。

(3) 著者紹介 (英文) および写真を添付すること。

(4) アブストラクトは 3 種必要である。すなわち、

a 論文冒頭に掲げる英文アブストラクト (原著論文では 200 語以内、ショートノートでは 50 語以内)。

b 前項の和訳。「情報処理」に掲載される。

c 刷り上がり 1 ページ (表題、著者名などを含めて) の和文要約。図、表等を含んでよい。和文論文誌に掲載される。ただしショートノートにあっては刷り上がり 0.5 ページとする。それだけを見れば論文の性格はわかり、読者に読んでみたいという気を起こさせるようなものであることが望ましい。

なお著者が日本人でない場合には (b) を省略し、(c) は英語版を提出することにしてもよい。その場合は編集委員会が必要な翻訳をおこなう。

(5) 査読割当ての便宜のため、所定の質問表に回答を記入して添付すること。

(6) 著者の所属、郵便送付先を明示した書状を添えること。日本語でも可。

B. 原稿の形式

(1) A判用紙 (21 cm×30 cm) の片面にダブルスペースでタイプ打ちを原則とする。用紙寸法は 8.5"×11" (レターサイズ) でもよい。たとえば 1 行 65 文字、1 ページ 28 行とし、上下 3 cm (強) の余白を残し、パラグラフの先頭を 5 字分あける。ただし印字品質が十分よくて読み違いの恐れがなく、査読者が書き込みをするためのスペースが十分あり、かつ分量の計算が容易にできるようなものであれば、これ以外の形式 (たとえばレーザービームプリンタの出力) であっても差し支えない。刷り上がり 1 ページは、通常のテキストでは 1,000 語程度であるが、図等があればその分のスペースを考慮すること。

(2) 前節 A の (4) に記載のとおりのアブストラクトを含めること。

(3) 表題、著者名、および所属は別紙とする。共著の場合には、著者と所属の間の対応を明示すること。

(4) 引用文献リストは「JIP」形式による。くわしくは英文投稿規定または最近の JIP を参照のこと。

- (5) 図のキャプションをまとめて別紙に示すこと。
- (6) その他英文原稿作成の常識にしたがうこと。

C. 図面の形式

- (1) 図は学会ではトレースができないので、鮮明で汚れがなく、コントラストのよいものを提出する。
- (2) できればA4判の用紙等を用いる。レターサイズでもよい。
- (3) グラフは座標軸のみとするか、主だった格子のみ示すこと。
- (4) レタリングが小さくなりすぎないように注意する。
- (5) 写真は光沢焼きとし、十分なコントラストと濃淡を持つ常識的な寸法のものとする
こと。
- (6) 図面原本には裏面に鉛筆で番号を振り、著者名を書いておくこと。

D. 査読

投稿原稿は査読される。採否の最終的判断は編集委員会でおこなうが、内容についての最終的責任は著者にある。

E. その他

- (1) 投稿原稿は返却しない。
- (2) 掲載論文等の著作権は学会に帰属する。
- (3) 著者または著者の所属先に、別刷100部を下記価格で購入していただく。

Pages	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
Prices	¥5,000	10,000	15,000	20,000	25,000	30,000	35,000	40,000	55,000	70,000